

# 函館・大沼・噴火湾ルート シーニックバイウェイ北海道



山根 文明 (やまね たけあき)

函館・大沼・噴火湾ルートコーディネータ  
((一社)北海道開発技術センター研究員)

1974年大阪府生まれ。大学卒業後、2005年に函館市に移住し、シーニックバイウェイ北海道に出会い、「函館・大沼・噴火湾ルート」のルートコーディネータを担当。ルート内の地域資源の知識を深め、人との交流を図りながら、地域活動に関する企画提案などの支援を行っている。

## 人と人をつなぐ道

シーニックバイウェイ北海道の制度が開始された2005年に候補ルートに、翌06年に指定ルートに認定された「函館・大沼・噴火湾ルート」は、函館山や山麓の歴史的街並み、駒ヶ岳や大沼、内浦湾沿いの縄文遺跡群など、多彩な景観資源や歴史資源を有する地域にあります。

これら資源の個性を発揮し、資源同士をつなげていくのは人であり、と同時に、人と人がつながり、それらが道を通じてつながっていることから、ルートテーマは「人と人をつなぐ道」となりました。

## 春から夏にかけてのおもてなし

「4月29日って語呂合わせでシーニックじゃない？」ルート役員の何気ない一言から始まった「シーニック清掃活動」。訪れる観光客の皆さんにルート内を気持ちよく過ごしてもらおうと、おもてなしの気持ちを込めて活動しています。昨年は、五稜郭タワーや函館市縄文文化交流センター、函館市地域交流まちづくりセンター、七飯町の4カ所で実施しており、新しく始まった活動と既存に行われていた活動がつながり、少しずつ広がる活動は、今年で7年目を迎えました。

函館新道(国道5号)の開通をきっかけに、2004年からおもてなしの気持ちで始まったのが「はこだて花かいどう」の活動。札幌方面から函館新道を利用して函館に入るときの玄関口になるため、観光客や地域住民の方々に気持ち良く走ってもらおうと、6月の植栽に始まり、7月から9月にかけての雑草取りや花がら摘みなど月1回の全体活動、10月末に植栽した花を撤去する花の活動は、昨年で11年目の活動。当初7団体で始まった活動も、今では25団体に増え、花の植栽時には、1,000人近くの参加者が集まり、みんなで楽しく活動を行っています。しかし、悩みもあります。2007年ごろから、花の成長が悪くなりました。活動計画を話し合う「はこだて花かいどう会議」の場で、「植樹<sup>ます</sup>の土が原因では？」との話しになり、自己流で試行錯誤を重ねながら堆肥づくりを始めたもののなかなか



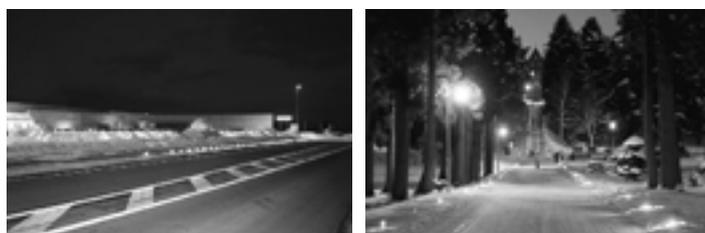
かうまくいかず、12年からは横浜国立大学大学院環境情報研究院土壌生態学研究室の先生方にアドバイスを頂きながら、本格的にミミズによる堆肥づくりを始めました。小学校やスポーツ少年団、函館工業高等専門学校など、地域の方々のご協力を頂きながら現在も堆肥づくりを進めています。

### 冬の灯りの演出

「はこだて花かいどう」の活動は、10月末に行う花の撤去で活動が終了してはいますが、「冬にみんなと会えなくなるのは寂しいね」との声があり、また、2006年に指定ルートになったこともあり、ルートの記念事業として「シーニックdeナイト」が始まりました。当初は、氷を使ったアイスクャンドルを使用していたのですが、雪や風に弱く、ろうそくに火を点けてもすぐ消えてしまい、灯りを楽しむ余裕がありませんでした。そこで、09年から、アイスクャンドルに加え、2種類のろうを混合して製作するワックスキャンドルを導入し、「シーニックdeナイト」のメインキャンドルとなりました。10年から13年にかけては、「シーニックdeナイト」の鑑賞に加え、温泉や食、文化等の地域資源と融合させたバスツアーを実施するなど、「シーニックdeナイト」を軸にした活動がさらに広がっています。また、11年には、現在、指定を目指して活動中の「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」にも活動が広がり、今後もさらなる活動が期待されています。

### 環境にも配慮した活動を

「シーニックdeナイト」では、環境に配慮し、ろうそくの「芯」の部分には、植物性100%の「ろう」を使用しており、これもルートならではの工夫です。また、カーボンオフセットの考えを取り入れたCO<sub>2</sub>削減を目的に、森林再生による各森林の自然環境を守る「シーニックの森づくり事業」を2009年から北斗市の「きじひき高原」で実施しています。ルートならではの工夫として、植樹する苗木は購入したものではなく、将来の林相を考慮して付近の森から苗木を山取し、植樹するといった手間暇をかけた森づくりを行っています。



### Good Road (景観が素晴らしい道)

私が函館市に移住して約10年。これまで、車でルート内を何度もドライブしてきて、景観が素晴らしい「Good Road」と思える道はたくさんありました。その中から、いくつかの道を紹介したいと思います。

まず、最初に紹介する「Good Road」は、通称「パノラマロード」と呼ばれる道です。八雲町にある「北海道立噴火湾パノラマパーク」前にあり、長く続く直線の先に見える噴火湾と道の両側にある白樺が特徴的。八雲町は海洋性気候のために夏に霧が発生することがあり、この写真のような天候に恵まれた時は、何とも言えない最高の気分になります。



続いて紹介する「Good Road」は、森町本茅部町付近の道です。この道の特徴は、何と言っても、噴火湾に浮かんでいるように見える駒ヶ岳です。駒ヶ岳は、森町・鹿部町・七飯町にまたがる活火山で、見る場所によって様々な表情を見せてくれます。



最後に紹介する「Good Road」は、2013年に開通したばかりの鹿部道路(国道278号)です。この道の特徴は、森町方面に走行し、現道との分岐点付近から、真正面に駒ヶ岳を見ながら、ドライブを楽しむことができる道です。



### おわりに…

「道」を通じたおもてなし、「道」を彩る灯り、そこには、地域の人々の汗、笑顔を垣間見ることができます。そして「Good Road (景観の素晴らしい道)」。全てが「道」でつながっていると看做しても過言ではありません。もちろん人と人も…。